

「CSW62 に向けた勉強会」

2017 年 11 月 6 日（月）

(独)国立女性教育会館 研究国際室

越智 方美

1. 自己紹介にかえて～私と CSW

- ・1997 年 開発学を学ぶため英国の大学院へ留学。
GAD の授業で CSW や「ジェンダー主流化」という用語を初めて知る。
- ・2002 年 東京ウィメンズプラザ事業係に非常勤職員として勤務。主として企業における男女平等の推進、若年女性のキャリア形成事業の企画を担当。働きながらお茶の水女子大学大学院博士後期課程に通う。
- ・2008 年 国立女性教育会館に転職。国際連携業務を担当。2012 年より日本政府代表団の一員として CSW に参加。

2. 56CSW から 61CSW まで

2-1. 政府代表団の一員としての業務

- ・日本代表の補佐
- ・会議の記録
- ・国連代表部からの依頼事項

2-2. NWEC 職員としての業務

- ・ジェンダー平等に係る国際的動向の把握
- ・過去に実施した NWEC 主催の多国籍研修参加者や、海外の連携先 (KIGEPE, KWDI, UP 等) とのネットワーク
- ・国際シンポジウムでの講演者の開拓、講師交渉

3. 国際会議をその場にいない人たちに伝えるには？

2013 年から、NWEC 主催事業の参加者を対象に、CSW の報告会を実施

↓

参加者からのフィードバックは、、、

「カタカナの専門用語が多くてわからない」

「国連など雲の上の話で、どう実践に役立てるのかのイメージは湧かなかった」

「自分の活動や業務とのつながりが見えない」

↓

- NY で感じた高揚感をそのまま話してもダメ
- 個人のレベルのエンパワーメントを、集団のレベルに転換するためには工夫が必要
- 学術論文ではなく、その年の CSW の概要を説明した小冊子を作ろう！
(気軽に一読できるようカラー印刷、写真を多用) → 『CSW 早わかり』の作成
- NWECC の研修に参加できる人は限られている→HP にアップしよう
- 口頭報告を行う際には以下の点に留意
 - ◇ "Jargon"は避ける
 - ◇ 用語解説をつける
 - ◇ 優先テーマの論点は3つ程度に絞り、日本の現状と比較して紹介する

以上